

地質ニュース

昭和52年10月

第278号

1977

解説	技術協力専門家派遣の21年……………海外地質調査協力室…1
	ITIT プロジェクト(国際研究協力事業)に参加して……………佐藤良昭…11
トピックス	有珠山噴火……………石田正夫 五十嵐昭 成田英 横田節 夫明 吉哉…20
	沿海鉱物資源探査・地下水資源開発 両集団研修の10ヵ年を顧みて……………長谷川博 野間泰 松井泰 二 藤…30
海外事情	砂漠と水資源……………桑形久夫…42
	世界各国の地質図……………海外地質調査協力室…53
	学会掲示板……………7
	渡島福島 OSIMA-FUKUSHIMA……………山口昇一…62

編集 地質調査所

表紙の写真

有珠山噴火

眼下に明鏡といわれる洞爺湖を見下し 昭和新山とともに 支笏洞爺国立公園の名所の1つである有珠山が 昭和52年8月7日午前9時12分突如として大爆発を起こし 噴煙は上空12,000mの高さまで達した。昭和新山誕生以来 実に33年ぶりの噴火である。

最初の爆発以後 8月13日まで10数回にわたる噴火をくり返したが その後噴煙も止み小康状態を保っている。しかし 8月20日現在 今なお火山性地震が群発し 火山活動が継続していることがうかがえる。

有珠火山は歴史時代の記録によると 噴火の前には例外なく火山性地震が多発している。地震は異例に長い昭和新山の6ヵ月を除いて 一般に噴火の前3~10日間に集中している。今回は噴火前1日と非常に短期間であった。表紙の写真は 8月7日午後1時31分の噴火 小林哲夫氏の御厚意により掲載した(撮影地は 洞爺湖西方)

写真 小林哲夫(鹿児島大学) 文 石田正夫(北海道支所)

発行 株式会社 実業公報社